



聖書の言葉に耳を傾けてください

# 特別伝道集会

## ■ 1日目

5月11日(土)

場所: 富山県民会館 6階(613号室)

時間: 午後 2時~3時

場所: キリスト集会所

時間: 夜 7時半~8時半

## ■ 2日目

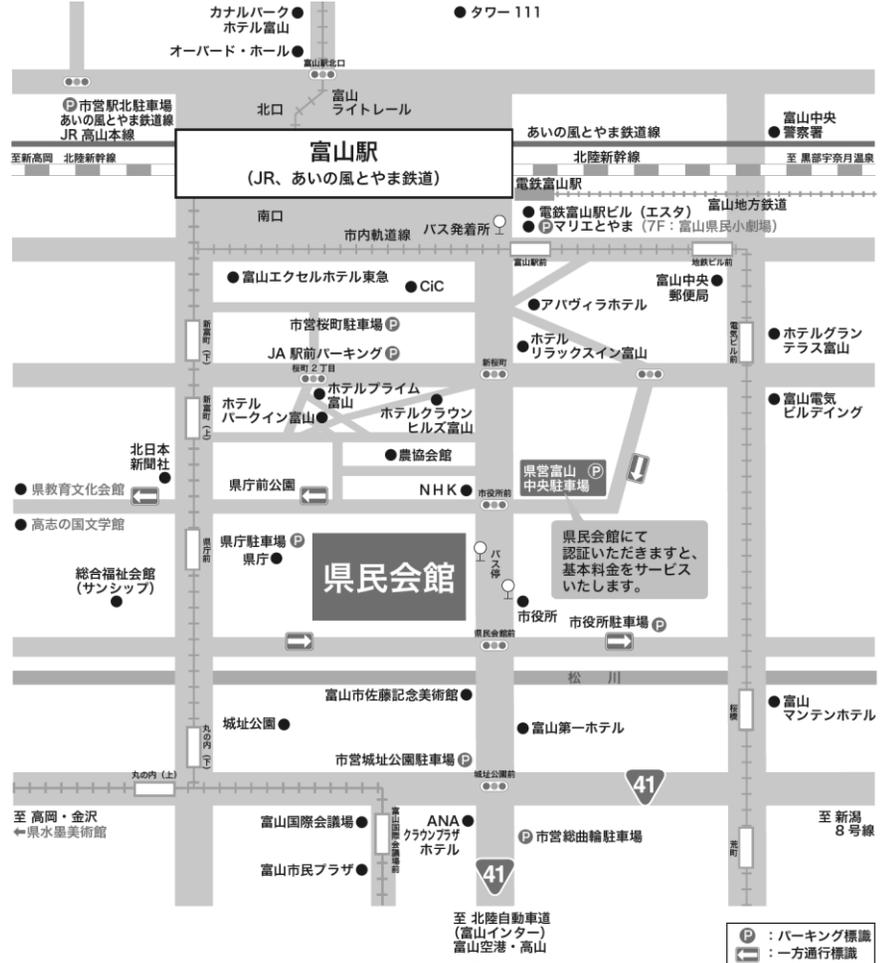
5月12日(日)

場所: 富山県民会館 6階(613号室)

時間: 午後 2時~3時

## ■ 語り 三浦 道二氏 (千葉県在住)

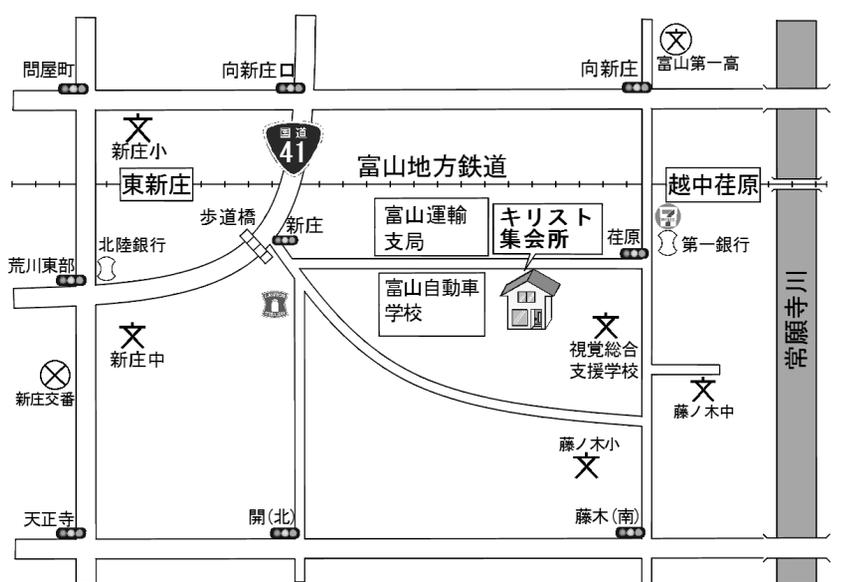
# 富山県民会館 案内図



〒930-0006 富山市 新総曲輪 4番18号  
☎ 076-432-3111

富山駅(南口)から徒歩10分  
または、地鉄バス主要路線 市役所前下車すぐ

# キリスト集会所 案内図



◆当集会ではご希望の方に(新約)聖書と聖書に関する印刷物を無料でお送りしております。

郵便番号、住所、氏名を明記の上、郵送、FAX又は電子メールにてお送りください。

## < 主催 >

### 富山キリスト集会

〒930-0992 富山市新庄町 119-1

TEL/FAX 076-492-2529 (キリスト集会所)

076-483-2535 (石崎) / 076-462-9179 (長谷)

e-mail shepherd@aaa.email.ne.jp

「聖書の福音」ホームページ

<http://www.ne.jp/asahi/bible/gospel/>

# 定期集会のご案内

~毎週聖書の福音をお伝えしています~

## 福音伝道集会

富山県民会館

毎月 第1日曜日 午後 2:30~3:30

## キリスト集会所

毎週 日曜日 午後 2:00~3:00

※第1日曜以外

水曜日 午後 7:30~8:30

## こども会 (未就学~小学4年生)

## 学生会 (小学5年生~大学生)

キリスト集会所

毎週 日曜日 午後 1:00~1:30

集会は一切無料・出入り自由です。

## 安らぎを与えてくださる方

あなたは、どんなストレスを抱えていらっしゃるのでしょうか？

現代は、「ストレス社会」と言われるように、人それぞれ、多かれ少なかれ何かしらの悩みや不安、悲しみや苦しみを抱えていらっしゃいます。人生を大雑把に幼年期、少年期、青年期、壮年期、老年期に分けるとすると、幼年期のうちはあまりストレスを意識することはないかもしれませんが、少年期になると友達関係や学校の成績、進路などの不安や悩みがありそうです。青年期には就職や仕事、異性関係や結婚も悩みの種かもしれません。壮年期になりますと、自分のことに加えて家族のことも悩みの種になります。老年期になっても、病気や将来のことが悩みの種になるかもしれません。

ある方は、『現代はストレス社会と言われるが、近年ストレスの要因が増えたわけではない。以前からもストレスの要因はあったが、ストレスから私たちを守ってくれるものが減少したのだ。』と言われます。年功序列が崩れ将来への不安が大きくなり、情報化社会が進み知らなくてもよい情報まで耳に入りストレスを受ける機会が増えました。また、核家族化が進むことでストレスを受けたときに共に戦ってくれる協力者が少なくなりました。

聖書には、次のようなイエス・キリストの言葉が記されています。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」(聖書)

私たちは、一人ひとりがストレスと戦っており、自らのストレスに向き合うだけで精一杯で、周りの人に気を配る余裕など無いかもしれません。その結果、重荷を負っている人を見かけても手を差し伸べることも、励ますことも出来ず、見て見ぬふりをするかもしれません。立ち止まっても、苦しみの中にある人に対して、軽薄な言葉しかかけることができないかもしれません。

しかし、聖書に記されているイエス・キリストは違います。私たちの重荷を理解するだけではなく、共にくびきを負ってくださるお方です。くびきとは、牛や馬などの家畜を使って耕うん作業などを行う際に、二頭の家畜をつなぐために使用する器具です。イエス・キリストは私たちの重荷を共に担ってくださり、私たちの傍らで歩調を合わせて共に歩んでくださるお方なのです。

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。」(聖書)

どうぞ、まことの慰めと安心を与えてくださるお方、イエス・キリストをお知りになられますよう、心からお薦めいたします。

## 私たちが目を向けるべきもの

車を運転したことのある方なら、死角で人や車が見えずヒヤッとした経験のある方も多いと思います。万一事故になってしまっても「見えなかった」と言い訳してもどうしようもありません。また、私たちが生きていく上でも「知らなかった」や「聞いていない」では通用しない事が多々あります。

死後の事はどうでしょうか？「そんなこと誰にも分からないだろう。」と思われるでしょうか？「私にはまだ先の話だ。」と考えておられるでしょうか？



聖書は、この世界を造り今も保っている神様がおられることや、死後に裁きがあること、また永遠の救いについてははっきりとあかししています。確かに、人は神様を見ることはできません。しかし、神様が造られたもの(被造物)によってその存在を知ることができます。聖書には「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」と書かれています。ですから「見えない」から認めない、「知らない」から無視するという態度は神様の前に通用するものではありません。

今の時代、神様は聖書を通してご自身を明らかにしておられます。そして聖書には「今は恵みの時、今は救いの日です。」と記されています。神様は今、あなたに恵を与えよう、あなたを救おうと願っておられます。その神様が人間に与えてくださった聖書により、神様のご存在や人間の罪、永遠の救い等の知るべきことに目を向けることができます。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊(イエス・キリスト)。」(聖書)

当集会では、聖書の言葉を分かりやすくお伝えしています。ぜひ集会にお越しになり、聖書の言葉に耳を傾けられますようにお勧め致します。